

主催者挨拶



齊藤智子

独立行政法人国際交流基金 JF 講座日本語専門家

主催者、独立行政法人国際交流基金、共催、モンゴル日本人材開発センターを代表してあいさつさせていただきます。日本語専門家の齊藤智子と申します。

本日は 2017 年第 10 回日本語教育シンポジウムにおいてくださりありがとうございます。臨時代理大使菊池様、教育文化科学スポーツ省、初中等教育局 局長 ボロルマー様、基調講演をお願いしている松下達彦先生、奥泉香先生、オコンツェツェグ先生、また、本日ウランバートルのみならず、モンゴル全国からお集まりいただきました日本語の先生方に心からお礼を申し上げます。

ただいま、日本語教師会長が述べられましたように、モンゴルの日本語教育において、「モンゴル人は読解が弱いのではないか」という問題意識があります。毎月開かれる教師会研究会例会においても「その理由は何か」「学校教育ではどのような指導が行われているのか」「日本とモンゴルでは読解に対する認識は同じなのか、異なるのか」など次々に疑問がわいてきました。そこで、モンゴル日本語教師会メンバーは、この一年間、日本、モンゴルの学校で使われている国語教科書、日本語教科書を様々な観点から調べました。その成果は明日の分科会で発表されます。

そして、シンポジウムの基調講演は私たちが考え、迷っているのを広い視野から俯瞰して、アドバイスして下さる先生に来ていただくことができました。招聘講師の先生方のお話をお聞きするのを楽しみにしておりました。また、明日は分科会に出席していただき、アドバイスして下さるのを大変楽しみにしております。

将来的には、学習者のレベルに合わせた読解教材作成を考えております。その方向性を決めるためにもとても大事なシンポジウムとなります。

最後に、この場をお借りしてお願いしたいことがございます。モンゴル日本語教育界の現在の課題は、モンゴル日本語教師会の自立的な運営です。シンポジウム、研究会例会、スタンダード勉強会、様々なイベント運営などを自主的、積極的に実施できる組織に育っていくよう、どうか、ここにご参集のみなさま、協力お願いいたします。と申しますのも、政府の方針もあり、国際交流基金は、来年度のシンポジウムの主催、および、地方への巡回指導も予算が削減され、実施できない見通しです。予算削減のため、様々な活動に制限が出てきております。モンゴルだけのことでなく、世界的に、日本語教育を現地の方々を中心となり運営するのをJFが支援していく方針が変わっていくことになります。

これをきっかけに、モンゴルの先生方が中心となり、更に日本語教育が発展していくよう、お集まりの方々、各機関のご協力をお願いいたします。

最後になりますが、改めまして、皆様方に深く御礼申し上げますありがとうございました。皆様の健康と、ご活躍を心から祈念しております。